

イラク人道復興支援活動を実施中のサマーワの治安維持に当たっていた蘭軍に変わり、英軍が治安を維持することとなっているが、ここに来て新たな動きが出てきた。オーストラリア軍が、部隊を増派し英軍と一部交代すると言う。豪首相は国内の反対を押しきってでも実施する意向のようだ。英、豪は同じ血を分けた兄弟みたいなものなので、基本的には共同作戦はスムーズに行われるだろう。豪首相の国益を考慮した決断にステーツマンとしての真価を見る思いがする。日本は唯感謝するのみなのだろうか。常識ある対応をして欲しいものだ。オーストラリアの日本に対する最大のラブコールである。

一方、自国の部隊の安全を外国に委ねざるを得ない現実を、為政者はどう判断すべきなのだろうか。“情けない、恥ずかしい”と言ったら言い過ぎか。

さて、フジテレビとライブドアの日本放送の支配権を巡る対立は、終に法廷に持ち込まれそうであり、全く予断を許さない状況である。

連日の報道は、このニュース一色であるが、実は気になるニュースがない訳ではない。富山地裁で、運輸業界の内部告発者が勤務先を相手取って損害賠償と謝罪を求めた訴訟の判決が昨日 23 日あった。

原告男性は、運輸業界の違法カルテルを内部告発した結果、会社側の報復として 30 年間もの間閑職に止めおかれ、昇進もなかったとして訴訟を起こしたものである。判決では、『原告の内部告発は正当で法的保護に値する。会社は報復として不利益な扱いをした』『人事権の行使は、…・正当な内部告発を理由に不利益に扱うことは違法になる』と認定し、慰謝料の支払いを会社に命じた。

私の倫理観からすれば、内部告発などもってのほか、人倫に悖る畜生の所業であると言いたくなる。内部告発の陰湿さ、卑劣・卑怯さ、組織に対する裏切り行為、忠誠心・ロイヤリティの欠如、そして内部告発行為が蔓延することによる社会全体の疑心暗鬼心の横溢・ギスギスした社会の出現等々人間不信の世界である。そんな世界が到来しそうである。

が然し、最近の企業のモラルハザードの、その余りもの崩壊振りを考えるならば、内部告発にも正義があるとも言えようか。確かに、此処数年間において明らかにされた企業の不正行為の殆どが、内部告発によるものであり、結果的に、その事によって社会正義が行われたことを考慮するならば、内部告発総て悪と決め付けるのも如何なものかと思わざるを得ない。また、内部告発が公に認められる事による抑止効果も期待できるのかもしれない。寂しいけれども、それが崩壊寸前の日本の偽らざる姿なのだろう。

今回の訴訟の因となった運輸業界のカルテル、各種の公共工事にかかる競争入札を巡る談合事案、食品業界の不祥事続発、M自動車のリコール隠し、某警察本部等の一連の不祥事等々、企業や組織のモラルハザードを示す話題には事欠かない。

利益至上主義、臭いものには蓋をし発覚しなければそれで良しとする企業風土、企業人の高い倫理観や社会正義に対する認識の欠如等が背景にあるのだろう。

危機感を抱いた日本経団連が「企業行動憲章」を改定し、企業により高い倫理観を求めたのはついこの間のことである。

然しながら、一遍の憲章で企業が高い倫理観を持ち得る筈もなく、また一朝一夕に涵養できる筈もないので、内部告発者を法的に保護する枠組みを作るべく、英国の「公益開示法」を参考にした「公益通報者保護法」の制定され、2006 年度から施行されることとなっ

ている。内部告発者を支援する組織として、「公益通報支援センター」（内部告発支援センター）が設立されている。

斯様に、内部告発を法的に保護する仕組み等が整備されつつあるけれども、それでも私は生理的に内部告発制度を許容できない。

先ず、第一に内部告発者が高い倫理観に基づいているのかが不分明である事。単なる足の引っ張りであり、誹謗・中傷との側面が本当はないのかも疑問だ。内部告発制度はその方向に堕しやすい。

第二に、内部告発をもし是とする場合でもそれは最後の手段たるべきと言うことである。企業内改革は本当に出来ないのか、その為にどれほどの努力を払ったのかの検証も必要だ。

内部告発をせずとも組織が高い倫理観や社会構成員としての認識をもって行動することは出来ないのだろうか。企業や組織に自浄能力を期待出来ないのだろうか。もし仮に、日本の企業がそこまで膿んでいるとしたら、日本滅亡の日も近い。自浄作用も利かない企業は劇場から退場してもらうしかない。

日本の組織人には、まだまだ「心」有る者が多く、彼等は一様に、高い倫理観を持って組織の為に文字通り懸命に働いている。内部告発はその様な者達の意欲を殺ぎかねない。

当面の便法、一時的非常措置としての「内部告発制度」の効用はあったとしても、それが社会正義を行なう為の正しい道・常道だと固定されては適わぬ、それは誤りである。

大事なことは、日本人・社会人の心を取り戻すことである。確かに昔も悪い奴は居たかも知れぬが、此れほどではなかったのではなかろうか。組織人や企業人、如何にあるべきか、人間如何にあるべきかの再教育をして日本を再生しなければならぬ。

時間は掛かるかも知れぬが、それ以外にあるまい。